様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年４月　２　日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：２００９～２０１１
課題番号：２１６５９４９２
研究課題名（和文）　看護専門外来システムの構築と総合的アウトカム評価に関する研究

研究課題名（英文）　Research on construction of a nursing special outpatient department system and synthetic outcome evaluation

研究代表者
岩永　喜久子（IWANAGA　KIKUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：４０３４６９３７

研究成果の概要（和文）：Ａ大学附属病院に９領域の教育－臨床連携による看護専門外来を開設し、看護のイノベーションとして看護役割拡大モデルを提示した。９領域の看護専門外来は、リラクセーションマッサージ、リラクセーション外来、リンパ浮腫外来、がん看護相談外来、乳腺看護外来、糖尿病療養相談・フットケア外来、母性看護外来、神経内科看護相談外来、母乳外来である。従来の診療体制の医学モデルに看護独自の専門性を加えて、キュアとケアを融合させた。

研究成果の概要(英文):The nursing special outpatient departments by educational-clinical cooperation of nine domains were established in A university attached hospital, and the nursing role expansion model was shown to it as an innovation of nursing.
The nursing special outpatient departments of nine domains are a relaxation massage, relaxation outpatient departments, lymph edema outpatient departments, cancer nursing consultation outpatient departments, mammary gland nursing outpatient departments, diabetes-mellitus medical-treatment consultation and foot care outpatient departments, motherhood nursing outpatient departments, neurology nursing consultation outpatient departments, and a mother's milk outpatient department.
The expert original with nursing was added to the medicine model of the conventional medical-examination organization, and the care was united with the cure.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,500,000	0	1,500,000
2010 年度	700,000	0	700,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	270,000	3,370,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学
キーワード：看護専門外来、がん看護相談、乳腺看護外来、母性看護外来、糖尿病療養相談・フットケア外来、リラクセーション外来、リンパ浮腫外来、神経内科看護相談外来

１．研究開始当初の背景
本研究は、臨床-教育連携による看護の役割拡大として、看護職による新たな事業の提示を特色としている。

入院期間の短縮と早期退院推進のための在宅/地域生活を推進し現実化させるためには、利用者本人を主体とした生活管理支援の充実が欠かせない。このような社会的趨勢の中で、臨床看護師は治療経過を熟知した上で、看護の専門的知識と指導技術を活用した個別の自立生活支援を具体化していく役割とその責務を負っている。

(1)　米国においては NP（nurse practitioner）資格をもつ優れた知識と判断力・実践力を備えた看護師が、独自の診療のための外来をもち看護診断や必要時処方をおこなっている。

(2)　わが国においても大学院修士課程で高度な専門性を身につけた専門看護師や認定看護師が輩出されるようになってきてきた。

(3)　臨床実務実践の中で卓越した判断力と技術力を備えた優れた看護職も多い。その専門性を活用し看護の専門サービス提供システムを構築することで社会のニーズに対応した役割を達成できる可能性がある。

(4)　本研究のモデル施設とする予定の A 大学附属病院において、すでに 5 年前から 4 領域の看護専門外来を開設し看護部と大学教育機関（看護学専攻）の教育研究者が連携して協働運営してきた。その後、母性看護相談や糖尿病療養相談・フットケアも開設したが、生活支援が必要なうつ病やがんの化学療法を受ける患者など、そのニーズはますます多様化してきており、さらに専門サービス領域を拡充しいく必要があった。そこで看護のイノベーションとしての専門外来のアウトカムを評価し、その体制を持続可能なものとしていくための取り組みが急務の課題となっていた。

２．研究の目的

本研究は、看護の役割拡大の具体的方略の一つとして、看護専門外来を開設・運営すると共にアウトカム評価をおこなうことを目的としている。

これまでの診療科を軸にした検査・病名診断・治療における外来システムに加えて、患者の生活支援の立場から、看護独自の専門サービスを提供するための看護専門外来システムを開発し、その運営方略と成果についてのアウトカム評価を検証する必要がある。

(1)初年度は本研究モデル施設の看護専門外来のサービス内容の洗い出しとシステム化を図ると共に、外来体制の基盤を強化、確立する。実践例を増やすと共に総合的なアウトカム評価指標を開発する。

(2)看護専門外来の運営を進め、アウトカム評価指標を用いて評価を行う。
(3)アウトカム評価を継続すると共に、専門外来体制のモデルを明らかにする。

３．研究の方法

研究は、次の 3 段階で遂行していく。
第 1 段階：従来開設している看護専門外来の活動状況の洗い出しと新たに包括する専門分野の外来設置体制の確立
第 2 段階：外来の運営とアウトカム評価方法の確立
第 3 段階：アウトカム評価の実施・成果の公表

(1)平成 21 年度（第 1 段階）A 大学病院をモデルとした看護専門外来システムの確立

A 大学病院をモデルとして、当該施設に期待される看護専門外来ニーズを調査し実施体制を確立する。外来運営に当たる人材の供給もとである大学教育機関および臨床看護部門の責任者に加えて診療部門と地域の有識者を交えて、有効な外来システムとその役割、継続的な人材担保のシステムと具体的な担当者の選定について審議/調整する。その上で、すでに開設し事績を上げているいくつかの外来運営を基盤に、新たに必要性が確認された外来分野を加えて、包括的な看護専門外来の設置体制を確立する。

さらに、システムの運営と評価のための連携会議を設置し、看護部責任者および看護管理学を専攻する研究代表者が統括する。また、総合的アウトカム評価の視点を検討し、指標を精選する。

(2)平成 22 年度（第 2 段階）外来運営とアウトカム評価方法の確立と評価用資料の整理

各専門外来の運営と実績の蓄積。運営には教育機関の専門領域の研究者と看護部の専門看護師、専門関心領域の研修を受けているものが協同で運営し、定期的な連携会議に報告する。

各領域共通のアウトカム評価（診療評価）と領域ごとに特有のサービスの質評価（看護サービスの有効性評価）、専門分野における看護学と看護機能の開発発展に果たす効果の評価（看護の役割拡大に果たす教育/実践/職務評価）の 3 側面から検討する。評価資料を使ったプレテストを実施する。

(3)平成 23 年度（第 3 段階）アウトカム評価

の実施と成果の分析・公表

上半期は、専門外来の運営を継続しさらに実績を積み重ねながら、①領域ごとに専門外来における看護サービス評価と、②この事業が看護職の能力拡大と職責の遂行度、その他の職務評価を実施して、看護の役割拡大に果たす効果および職務満足評価をおこなう。

下半期は、診療評価として病院機能に果たす役割と効果、有効性などを検証し、①看護専門外来システムがこれまでの診療を軸にした医療にもたらす意義について評価をおこなう。さらに、②看護専門外来受診者が、疾患をかかえながら地域生活者として自立可能な支援であったか利用者評価（患者アウトカム評価）をおこなう。以上、実施してきた一連の看護専門外来のシステム構築と開発した総合的なアウトカム評価指標の有用性について分析し、公表する。

４．研究成果

(1) モデルとするＡ大学附属病院に教育－臨床連携の看護専門外来を開設した。

当初開設していた４領域に加え、最終的には次の９領域を開設・運営した。９領域の看護専門外来は、リラクセーションマッサージ、リラクセーション外来、リンパ浮腫外来、がん看護相談外来、乳腺看護外来、糖尿病療養相談・フットケア外来、母性看護外来、神経内科看護相談外来、母乳外来である。

(2)看護専門外来のシステムを構築した。Ａ大学病院と大学教育機関の看護専門外来に関する運営の組織化を行った。先ず、それぞれの専門性を発揮するための診療部門との連携するシステムを創った。運用に当たっては、看護部と具体的な運営会議（看護専門外来事業委員会）を設置して体制を確立した（図１）。大学教育機関の看護教員と、看護部臨床の看護専門家が共同で定期的な運営会議を開催し、運用に当たっての問題点や実績などを検討して、充実化を図った。組織化することによって、看護専門外来を教育・臨床双方からの教育・実践・研究の場として改めて位置付けし、学部生・大学院生・看護職・教員がともに活用できる場としても体制を整備し強化した。

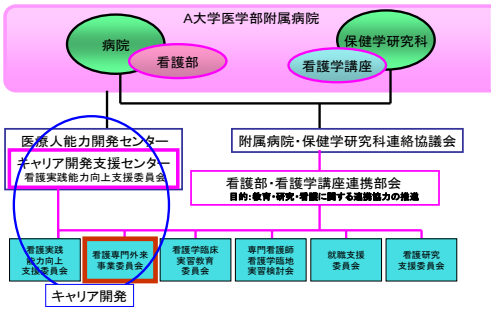

図１　看護専門外来に関する運営組織図

(3)看護専門外来の運営を行った。

①それぞれの分野の運営体制は、診療部門と連携した上で、看護学の教員と看護部門の看護師や助産師が共に活動可能な週間予定を決め、協働できる体制とした。その際、事業委員会において、大学附属の病院への看護職の看護実践が可能な体制として整備した。医学部の教授会による承認を得て、大学の内規に法規的に記載され、内容の整合性が保たれる体制とした。

②院内での他職種への周知も進め、医師よりの紹介や病棟の看護職からの紹介を受ける体制とした。しかしながら、必ず、初診はそれぞれの診療科の医師による診断を受け、医師との連携をとりながら、看護独自のサービスを患者のみならず家族も含めて実施する体制とした。なお、病院のホームページにもアップし、各診療体制の中の看護専門外来として公開した。ホームページは、必要時変更して更新し、利用者は診療科よりアクセスすることができるようにし、各専門外来の活動内容を掲載した。

URL：http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/
群馬大学医学部附属病院

③それぞれ看護専門外来の運営日程を決めた（表１）。病院のスタッフは横断的に活動可能な体制とするとともに、教育機関の看護教員は、授業のない日程とし協働した。実施可能な人員や、それぞれの病棟ならびに教育機関での活動により、活動日が異なった。

看護専門外来	月	火	水	木	金
がん相談	○	○	○	○	○
乳腺看護外来	○		○		
リンパ浮腫外来				○	
緩和ケアマッサージ				○	
リラクセーション外来				○	
母性看護外来					○
母乳外来	○	○	○	○	○
糖尿病療養相談・フットケア			○		○
神経内科看護外来		○			

＊問い合わせ先：各診療部・外来、患者支援センター

表１　看護専門外来運営日程

(4)各看護専門外来の実施内容は、主にそれぞれの専門性を発揮した次のようなものであった（表２）。

①がん相談や、手術への不安・恐怖に対す

る術前の面談、術後の増大したリンパ浮腫へのフィッテイングとドレナージ、切迫早産・死産などへの看護カウンセリング、がん性疼痛などの患者へのマッサージ、リラクセーション法、気孔法、アロマセラピー、フットケア、アセスメント介入、インスリン導入指導などであった。

②患者実績数は各分野の特徴によって異なるが、1 年間でがん相談 600 件以上、糖尿病療養相談では 310 件などであり、1 患者に時間をかけた関わりを特徴とする場合は 25 名程度であった。

③特に、診療では時間的な制約を受け十分な時間が取れないこと、在院日数の短縮化により、患者・家族の希望とは反して地域の在宅へと移行している。そこで、看護外来を受診することにより、対象が日常生活の基盤を取り戻すことができるようになった。

また、診療報酬は、糖尿病療養相談・フットケア外来の療養相談では、平成 22 年度では 310 名の患者に対して、診療報酬も 36,990 点であった。

表２　22 年度の主な看護専門外来実績

外来	総数（人）	主　な　内　容	診療報酬
糖尿病療養相談	３１０	療養相談、フットケア、アセスメント介入、インスリン導入指導	36,990 点
がん相談	６２２	がん相談、重粒子治療相談	－
乳腺看護	２９１	面談（術前後、化学療法、恐怖）	－
リンパ浮腫	１２５	フィッテイング、ドレナージ	133,150 円
母性看護	１１１	看護カウンセリング（切迫早産、死産、頸管無力症による混乱・落ち込みなど）	－
ﾘﾗｸｼｪｰｼｮﾝ	２４	リラクセーション法、気功法、アロマセラーピー	－

(5) 看護専門外来担当者の人材の育成システムを構築した。事業を継続するための人材の育成をして、継続可能な体制を創った。体制を継続させるために、各分野の人材育成が急務であったため、連携会議を通して、キャリア開発のシステムを A 大学病院のモデル施設に創出し、施設のラダー教育へ組み込みながら育成している。年度末に担当者ならびに施設の看護職や他部門の参加者による活動報告会を実施するとともに、今後活動したい看護専門外来のニーズ等も調査した（図２）。また、退職による有能な人材の再雇用のシステムを創り、継続してサービス提供ができるシステムを構築した。その結果、キャリア開発のシステムの運用ができるようになった。

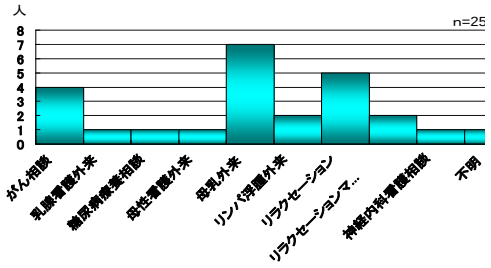

図２　活動してみたい看護専門外来分野

(6) 看護専門外来システム構築に向けた内外への周知と評価を行った。内部では、年度ごとに、他職種も参加して活動報告会を開催し領域ごとで実績を報告した。その際、患者の紹介など看護専門外来を積極的に活用した経験があるかでは 40 名の回答者で 27 名（67.5%）であった。また、6 割近く（36 名）が将来的に看護専門外来で活動してみたいという希望を持っていた（図３）。

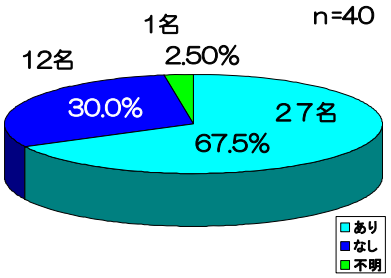

図３看護職等看護専門外来の積極的な活用

(7) 看護専門外来のアウトカム評価のための評価指標を開発するために、患者用質問紙調査票ならびに活動している看護職の面接調査ガイドラインなどを策定し、決定した。その際、国内看護学学会学術集会において参加者との討論内容も参考にして、調査票を作成した。患者対象と、実施者である看護職へのインタビュー項目を決めた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11　件）

①角田明美、神田清子、冨田千恵子、患者の声に応える　ナース必見専門外来ガイド群馬大学医学部附属病院がん相談外来、臨床看護、査読無、第 12 号、2011、pp1509-1516

②廣河原陽子、杉本厚子、二渡玉江、患者の声に応える　ナース必見専門外来ガイド乳腺看護　群馬大学医学部附属病院乳腺看護外来、臨床看護、査読無、第 12 号、2011、pp1509-1516

③神田清子、角田明美：がん相談外来設立の経緯と現状．東京：がん患者ケア.日総研.査読無、2011.5. 60-68

④小林しのぶ、金子有紀子、柳奈津子、小板橋喜久代、リラクセーション外来における受診者の特性および技法効果の分析、日本看護技術学会誌、査読有、9 巻 3 号、2010、pp27-33

⑤金子有紀子、小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 11 回）触れて癒す・癒されるタッチケア実践のポイント、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 13 号、2010、pp14-16

⑥小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 9 回）伝統的な優れた養生法　気功の錬功、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 10 号、2010、pp14-16

⑦小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 8 回）伝統的な優れた養生法　瞑想法、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 8 号、2010、pp14-16

⑧小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 7 回）伝統的な優れた養生法　気功、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 9 号、2010、pp14-16

⑨小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 6 回）リラクセーション法　誘導イメージ法、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 7 号、2010、pp14-16

⑩小板橋喜久代、自分を磨き技を磨く補完代替療法を活用するナースの学び直し（第 5 回）　リラクセーション法　自律訓練法、ナーシング・トゥデイ、査読無、25 巻 6 号、2010、pp44-46

⑪小板橋喜久代、｛変形性膝関節症｝リラクセーション法を慢性通の患者のリハビリに活用する、日本整形外科看護研究会誌、査読有、5 巻、2010、pp32-35

〔学会発表〕（計 8　件）

①岩永喜久子、常盤洋子、小板橋喜久代、牛久保美津子、角田明美他、臨床-教育協働による看護専門外来が看護職務意識に及ぼす効果、2012.12.1、第 31 回日本看護科学学会学術集会、高知市文化プラザかるぽーと（高知市）

②市川幸恵、猪熊綾子、牛久保美津子他、神経内科看護相談の誕生から現在までの活動状、2011.2.18、23 年度日本プライマリ・ケア連合学会群馬県支部研究会（前橋市）

③小板橋喜久代、統合医療の第一線は看護師である統合医療におけるホリスティックナーシングの実践者育成にむけて、2012.1.14 日本統合医療学会、大宮ソニックシティ（大宮市）

④高橋陽子、杉本厚子、 鯉淵幸生、二渡玉江他、乳腺看護外来における「つらさと支障の寒暖計」と医療者への意思伝達程度との関連の検討、2010.6.24、第 18 回乳腺癌医療総合医学会、さっぽろ芸術文化の館（札幌市）

⑤岩永喜久子、神田清子、小板橋喜久代、野本悦子、高橋陽子、臨床-教育連携による看護専門外来運営と高度実践・教育・研究への展望、2010.12.4、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌コンベンションセンター（札幌市）

⑥柳奈津子、小板橋喜久代、金子有紀子、術後の慢性痛に対してリラクセーション法を適用した 1 事例、2010.12.4、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌コンベンションセンター（札幌市）

⑦小板橋喜久代、眠りへいざなう技　セルフリラクセーション、2010.10. 23、第 9 回日本看護技術学会学術集会（名古屋市）

⑧KikukoIwanaga,Kikuyo Koitabashi,Misako Koizumi:Development and expansion of the Specialized nursing outpatient department (SNOPD)program,The 1st International Nursing

〔その他〕
ホームページ等
(1) ホームページ
群馬大学医学部附属病院
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

(2)報道
①読売新聞、がんサロンとがん相談、2012,2,26
②上毛新聞、健康通信クラブがん相談、2011,4,11
③上毛新聞、がん患者や家族交流　教授が講演リラックス法などの指導、2009.11.19

(3)大学地域貢献事業
平成 23 年度群馬大学地域貢献シンポジウム報告書、乳がん自己検診・華麗に女性を生き抜くために・こころの環境を整えよう、2012.2.20、前橋市総合福祉会館（前橋市）

(4)看護専門外来施設見学
①岩手医科大学附属病院、がん看護相談外来、2012.3.27

②聖マリアンナ医科大学病院、リラクセーションマッサージ外来、2012.3

③東北大学病院地域医療連携センター5 名（医師 1 名、看護師 3 名、MSW1 名)、がん看護相談外来、2011.23.1

④千葉大学看護学部、乳腺外科外来、2010

６．研究組織
(1)研究代表者
岩永　喜久子（IWANAGA KIKUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：４０３４６９３７

(2)研究分担者
小板橋　喜久代（KOITABASHI KIKUYO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：８０１００６００

神田　清子（KANDA KIYOKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：４０１３４２９１

二渡　玉枝（FUTAWATARI TAMAE）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：００１４３２０６

常盤　洋子（TOKIWA YOUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：１０２６９３３４

岡　美智代（OKA MITIYO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：１０３１２７２９

牛久保　美津子（USHIKUBO MITUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：９０２１３４１２

小泉　美佐子（KOIZUMI MISAKO）
新潟県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：５０１７０１７１

前田　三枝子（MAEDA MIEKO）
関西看護医療大学・看護学部・教授
研究者番号：３０２９０１１７